

親子で病院を見学

子供の未来を考える

1935(昭和10)年11月30日、日本赤十字社北海道野付牛療院が開院。病長・医学博士三宅寅ほか7名、看護師30名、木造2階建て870余坪。現北見赤十字病院の始まりです。その後、何回か増改築を行い、病院は進化してきました。

安全な最新の治療をめざして、地域医療の充実に取り組んでいる。

北見赤十字病院のその取り組みを市民の皆さんに知ってもらうために、今回、「親子で病院を見学」を企画した。

なによりも尊い「人の命」を救う医療の現場に触れ、一人でも多くの子供たちが未来への夢をはぐくむ、きっかけになることを期待する。またご家庭で親

子の会話に病院やその仕事などが話題になることを更に期待している。

このことが、将来、地域医療に携わる人の

創立8周年記念 活動パネル展 平成29年10月 日赤ギャラリー

平成22年、北見赤十字病院で医療活動に携わる全ての人に感謝し、病院の医療活動の現状と将来を考え、支援する目的で当会は設立され。今年、創立8周年を迎えます。

あまり無い活動なので、一般には馴染みがなく、発足当初は活動も停滞気味であったが、最近、病院の理解も深まり、信頼関係も確立し、新病院の開院を機会に更なる活動の強化に取り組んでいる。

私たちの活動を市民の皆さんに少しでも

2014(平成26)年12月1日、新病院が旧北見市役所跡地に開院する。近代的設備で安心

平成22年、北見赤十字病院で医療活動に携わる全ての人に感謝し、病院の医療活動の現状と将来を考え、支援する目的で当会は設立され。今年、創立8周年を迎えます。

あまり無い活動なので、一般には馴染みがなく、発足当初は活動も停滞気味であったが、最近、病院の理解も深まり、信頼関係も確立し、新病院の開院を機会に更なる活動の強化に取り組んでいる。

私たちの活動を市民の皆さんに少しでも

平成22年、北見赤十字病院で医療活動に携わる全ての人に感謝し、病院の医療活動の現状と将来を考え、支援する目的で当会は設立され。今年、創立8周年を迎えます。

あまり無い活動なので、一般には馴染みがなく、発足当初は活動も停滞気味であったが、最近、病院の理解も深まり、信頼関係も確立し、新病院の開院を機会に更なる活動の強化に取り組んでいる。

北見赤十字病院



でっかい夢をみよう

平成29年 10月22日(日) 午前10時から 11時40分

参加申込書 各学校のご担当の先生にご提出願います

親子で病院を見学

私たちの活動を市民の皆さんに少しでも

平成22年、北見赤十字病院で医療活動に携わる全ての人に感謝し、病院の医療活動の現状と将来を考え、支援する目的で当会は設立され。今年、創立8周年を迎えます。

あまり無い活動なので、一般には馴染みがなく、発足当初は活動も停滞気味であったが、最近、病院の理解も深まり、信頼関係も確立し、新病院の開院を機会に更なる活動の強化に取り組んでいる。

私たちの活動を市民の皆さんに少しでも

平成22年、北見赤十字病院で医療活動に携わる全ての人に感謝し、病院の医療活動の現状と将来を考え、支援する目的で当会は設立され。今年、創立8周年を迎えます。

(逢坂記)



編集後記

平成22年4月6日、本紙の創刊号が発行された。その紙面はA3の片面2つ折り、インクジェットプリンターでプリントした簡素なものであった。

当時、旧北見市役所跡地への新病院の移転や北見市の多額の財政支援など市政の争点であった。そのことへの理解を少しでも深めようと、創刊号の1面トップ見出しは「日赤の現状を知る 支援の一步を踏み出す」で、当時の北見赤十字病院の決算を調べて記事にした。

今振り返ると、気が負いすぎではと気恥ずかしい思いです。あれから、幾多の人々と会での出逢いがあり、また別れがあった。本紙、20号を印刷所に送るにあたり、年月の流れを感じる。